

4 内陸にある中央高地の産業の移り変わり

○山あいの盆地に生まれた産業

中央高地：甲府盆地や長野盆地に（ ）が広がる

→明治から昭和にかけて、扇状地を（ ）のための桑畑として利用

→化学繊維の普及で（ ）が衰退し、果樹の栽培が始まる

例）山梨県・長野県：ぶどうや桃の産地 甲府盆地：ワインの生産が盛ん

※（ ）とは、桑の葉をえさとして蚕を育て、繭を生産する産業のこと。（ ）とは、繭から生糸を作る産業のこと

中央高地の観光：1年を通して大都市圏から観光客が訪れる

→新幹線や高速道路を生かし、外国人観光客向けの周遊ルートも開発

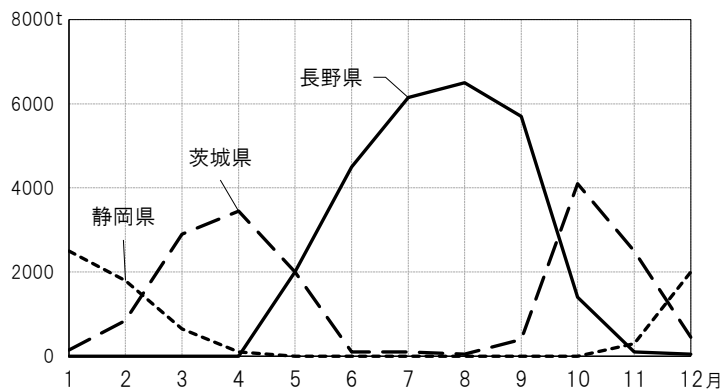
○涼しい気候を生かした高原野菜

中央高地：かつては雑穀（そばなど）や野菜をわずかに生産

→第二次大戦後、涼しい気候に適した（ ）の栽培が盛んになる

例）野辺山原（長野県）：抑制栽培を行い、夏の時期に高原野菜を出荷

＜東京へ出荷されるレタスの量(2019)＞



○製糸業から電気機械工業へ

諏訪盆地（長野県）：1920年代ごろから製糸業が衰退

第二次世界大戦中：製紙工場の跡地に大都市から機械工場が移る

→第二次世界大戦後、時計やレンズを作る（ ）が発達

1980年代以降：高速道路の整備が進み、工業製品や原材料の輸送が便利になる

→高速道路の周辺に、電子部品や産業用ロボットなど（ ）の工場が進出

例）松本市・伊那市（長野県）、忍野村（山梨県）など